

今号の主な記事

- ◇所得税・市県民税の申告は3月15日までに……2・3面
- ◇情報通信技術を活用した授業へ……4面
- ◇「NPO文化祭」開催……5面
- ◇公民館特集……6・7面



皆さんに安らぎと潤いを与える水。西宮の豊かな自然環境を大切に守っていきましょう

これからの下水道 豊かな水環境 次世代に継ぐ

下水道は、汚水の処理や雨水をすみやかに排除して浸水を防ぐことで、皆さんの快適で安全な生活を支えています。さらには、汚水を浄化して海や川に戻す働きにより、豊かな水環境の創造に貢献しています。

かけがえない水環境を次世代へ引き継ぐためには、皆さんと連携・協働して取り組むことが必要です。

市は下水道事業が目指すべき方向性・取り組みについて説明した「西宮市下水道ビジョン」を平成21年度中に取りまとめ、次の計画を推進していきます。問合せは計画整備グループ(0798・35・3656)へ。

合流式下水道の改善

JR東海道本線以南の大半の区域では、汚水と雨水を同一の管渠(かんきょ)で集水し処理する「合流式下水道」を採用しています。この方式は経済的であるため多くの都市で採用されてきました。しかし一定以上の雨が降り、浄化センターの処理能力を超えると汚水と雨水が混合した未処理の下水が海に放流され、海域の水質への悪影響が問題となっています。

そのため、浄化センターの処理方式の見直しや下水を一時的に貯めて降雨後に処理する貯留施設の整備などさまざまな対策を行い、未処理下水の放流回数を減らすことでよりよい水質を目指していきます。

また、下水に含まれる固形物や景観上好ましくないごみなどの流出も極力防止します。

高度処理方式の導入

これまでの下水処理方法(標準活性汚泥法)では赤潮の発生源となる糞素・りんは取り除く

ことはできません。そのため大阪湾の水質環境保全を目的として「大阪湾流域別下水道整備総合計画」が策定され、糞素やりんが可能な高度処理方式の採用が平成17年から義務付けられました。本市の3つの浄化センター(枝川・鳴尾浜・甲子園浜)でも高度処理を推進していきます。



昨春、夙川河口付近で泳ぐがも親子。きれいな川をいつまでも

浸水対策・雨水整備

市は現在、時間当たりの雨量47ミリ以上に対する浸水対策や雨水整備を行っています。

さらなる安全・安心なまちづくりに貢献するため、10年に1度の降雨(時間当たりの雨量55ミリ以上)に対応する管渠の増設や雨水貯留施設など流出抑制型の施設整備(小学校や公園に5カ所施工)を目指します。この整備が普及することで短時間

施設の長寿命化・耐震化

市の下水道は、これまでに建設された膨大な施設の適正な管理や機能維持が課題となっています。そこで、施設のライフサイクルコストを勘案した長寿命化計画や阪神・淡路大震災規模の地震に対応した耐震化整備計画を策定し、下水道機能の向上を図ります。

また、中期経営計画の策定により下水道事業経営の情報を開示し、「市民と共に歩む下水道」の実現を目指します。

市長からのメッセージ 美しく安全なまちに



知山 本市の下水道普及率はほぼ100%に達し、皆さんの家庭や事業所などから排出される汚水は、川や海に直接流されることなく浄化センターで処理できるようになりました。

今では川や水路の水質は改善され、魚や野鳥、水生動植物の姿を目にするようになり、皆さんも清流の復活を実感されていることと思います。

しかしながら海域は、まだまだきれいな状態とは言えず、大阪湾では赤潮が発生し生態系に悪影響を与えています。市では、子どもたちが自然と触れ合える、市民が憩

う海浜を目指して、今後もさらなる水環境の改善に向けて下水処理方式の見直しを積極的に推進してまいります。

また、下水道には市民の生命・財産を守り、大雨等による浸水被害を防止するという大切な役割がございます。自然災害はいつ起こるか予測ができません。だけれども安心して暮らせるまちづくりは、市民共通の願いであり、なお一層の下水道施設の整備・改善に取り組んでまいります。

豊かな水環境をしっかりと保全し次世代に引き継ぎ、美しく安全なまち西宮を皆さんと一緒につくってまいります。